

ミニ・シリーズ：「根をデザインする」のその後

その1：ワークショップ以降の動き

AAIニュース12号で既に紹介したように、我々は1997年夏に「根をデザインする」と題するワークショップを開催した。このワークショップでは、午前中には写真データベースを使って「根をデザインする」という考え方が紹介され、午後には実際に器具を使って参加者による現場作業が行われた。理論と実践を参加型で実施した本ワークショップは、多くの参加者に興味を持って頂けたようで、内容の学会誌への投稿やテレビ番組としての編集への誘いが相次いだ。

そのため、「根をデザインする」という考え方や乾燥地域での実際の活動を、下に示すような数々の学会誌、シンポジウム等を通して紹介した。最近では、「根のデザイン：根が作る食糧と環境」と題する本が養賢堂から発行され、この本の一部でそれまでの活動をとりまとめて、「沙漠緑化と根系の生育」として紹介した。加えて、NHKの衛星放送を通して、我々の活動が世界に向けて放送された。それらの概要は以下のとおり。

学会誌、テレビ番組等	時期	概要
根の研究 第6巻 第3号 根研究会	1997年9月	乾燥地植林における新しいアプローチというテーマで、「根をデザインする」という考え方を紹介した。
日本緑化工学会誌 第23巻 第1号 技術資料	1997年9月	長根栽培による乾燥地における節水植林法の導入というテーマで、アラブ首長国連邦での活動を紹介した。
グリーン・エージ 98年 新春号 日本緑化センター	1998年1月	植栽樹木の根系と育成技術というテーマで、長根苗の育苗と植栽技術を紹介した。
日本緑化工学会 研究集会要旨集 乾燥地緑化研究部会	1998年4月	「持続可能な植林」をテーマとした研究部会で、長根栽培や露塚灌漑等に関する活動を紹介した。
NHK（衛星第二放送） JAPAN THIS WEEK	1999年5月	長根栽培技術の実際と「サヘルの森」によるマリ共和国での活動を、様々な映像を使って紹介した。
フォレストコンサル No. 80 林業部門技術士会	2000年1月	乾燥地での植林技術を、資材がほとんど得られない地域での現地に即した植え方に着目して紹介した。
「根をデザインする」のホームページ 立ち上げ	2001年10月	http://www.open-resource.org/rootdesign/index.html 「乾燥地に生きる」「考え方の基本」「種子から自然へ」
第6回国際根研究学会シンポジウム ポスターセッション	2001年11月	根：植物と母なる大地地球をつなぐインターフェースのポスターセッションで、我々の活動と成果を紹介した。
根のデザイン 根が作る食糧と環境 養賢堂	2003年11月	第21章の沙漠緑化と根系の生育で、根のデザインの考え方、開発した技術、現場での活動をまとめて紹介した。

このように、様々な機会を使って「根をデザインする」という考え方を多方面に紹介する間にも、現場ではより実践的な技術を目指した活動を続けてきた。そうした活動を通して次第に明らかになってきたことは、普通苗を使っても根が延びて行こうとする部分の処理さえしっかりしておけば、長根苗の植栽と同様の効果が得られるということである。つまり、ある程度の深さまで根が延びやすい条件を整えた場所に普通苗を植栽すれば、現場で長根苗を育苗したことと同じ結果が得られる。さらには、若苗齢の苗の植栽可能性も出てきた。つまり、長根苗を育苗する際には、催芽処理を施した種子をビニルポットに播種した小苗をパイプ状のポットに移植する。この小苗を直接植栽しても、植栽地点の選定、植栽前の処理、植栽後の管理が適切であれば、かなり高い活着率が期待できることもわかってきた。

長根苗の育苗とその植栽技術の開発、現地植林活動への応用と結果の紹介、現場でのその後の試行錯誤等々の活動を通して、我々はワークショップ以降も多くのことを学んできた。そこで、本ミニ・シリーズでは、長根栽培以降の適正技術の開発や適性技術の普及手法について、現地での経験を紹介すると同時に、世界の荒廃地を対象とした今後の植林活動の可能性についても検討してみたい。